

市仏連会報

発行所

横浜市中区大平町96

光明山西有寺内

横浜市仏教連合会

電話 045(661)0166

会長挨拶

横浜市仏教連合会

会長 齋藤隆法

新しい年も迎えて市仏連会員の皆様にはお変わりもなくお過ごしのことと存じ、およろこび申し上げます。毎年このことですが、年の始めに今年こそは何事もなく無事で平和な年でありますようにと、心に念じて新年を迎えるわけですが、



今年もまた中学生による教師の刺殺事件といういたましい事など、人間として許されざる甘えの行動がこの事に限らず次々と報道され、新聞を始め、特にテレビのワイドショーなどで日常のことのように私共の耳目に映ります。なげかわしいことです。親の責任や教師の責任がとかく問題視されますが、やはり根本的なことは自己の責任を自覚することに他ならないのだと思います。大人に成長して行く彼等に対して、その成長を妨げている何かがある。それは家庭や学校における甘やかashiと

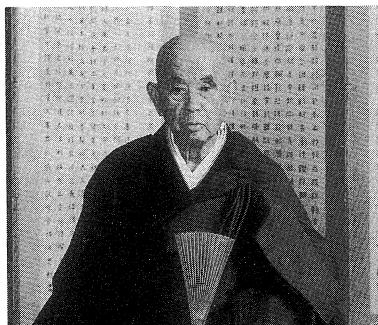
放任、つまり、親や教師自身の責任と自覚不足ということになるのではないのでしょうか。仏様の慈悲の心こそが、今、彼等にとつて必要なことではないでしょうか。家庭の中でも学校の中でも、その人間関係において一番大切なことは大きな愛情であろうと思います。それが慈悲の心であると思は信じております。

二月十日には神奈川県仏教会の担当で神奈川県高島台の本覚寺において、釈尊涅槃会が修され、市仏連各寺院の皆様のご協賛、檀信徒の方多数ご参拝を頂き、有難うございました。特に地元担当の区仏の皆様には心から感謝申し上げます。なお、市仏では六月に恒例の一日参拝バス旅行も計画しております。すでにチラシ等は配布済みのごと存じますが、多数のご参加ご協力をお願い申し上げます。

市仏連では地域の皆様との連帯を保ちながら、よりよい活動をしていきたいと考えております。区仏を通して今後ともよろしくご協力ををお願い申し上げます。各区仏ご寺院の寺門の興隆とご活躍をご祈念申し上げます。年初のご挨拶といたします。 合掌

市仏連名誉会長御遷化される

尚本葬は、四月九日大本山総持寺において営なされます。後任には板橋興宗禅師さまが、ご就任なされます。



市仏連名誉会長、大本山総持寺貫主成田芳髓禅師さまが、一月二十二日午前〇時七分ご遷化なされました。禅師さまは、明治三十八年十二月愛知県で御出生、享年九十二才でございます。

平成八年七月九日、市仏連前会長外役員が禅師さまを訪問、名誉会長のご就任をお願い、心よく引き受けいただきました。ここに謹んでご生前のご遺徳をたたへ心から哀悼の意を表します。



市仏連印

市仏連役員名簿

名誉会長	板橋興宗
顧問	志村慎吾
顧問	柳下隆侃
顧問	森山正城
顧問	滝川覚道
顧問	横山敏明
参事	福永隆昭
会长	斎藤隆法
副会长	玄野孝善
副会長	川上敬吾
専務理事	林田真成
會計	橋下賢明
時局対策委員長	佐藤功岳
会報担当	備前恭忍
会報担当	関水俊道
釈尊奉讃会担当	程木昭徳
釈尊奉讃会担当	程木昭徳
監事	野沢隆幸
監事	内野公雄
他役員	常務各理事
顧問弁護士	遠藤隆也

— 県慰霊堂出仕当番表 —

11	中区仏教会
10	保土ヶ谷・旭区仏教会
10	鶴見区仏教会
10	戸塚区仏教会
10	栄区仏教会
11	
5	

第二十三回釈尊涅槃會開催

於本覺寺・神奈川区仏教会担当

当市仏連主催の涅槃會が平成十年二月十日、神奈川区仏教会当番で高島台の本覺寺様を道場として厳修された。

青木山延命院本覺寺は七十二年前に臨濟宗の寺として始まり、天文二年に元吉禪師が曹洞宗に改宗して以来四六〇年の歴史を誇る。現任職守長尚文師で歴任二十七代目を算える。幕末にアメリカ領事館として使用されたことは有名。今でも、日本初のペンキの塗り跡が山門に残る。

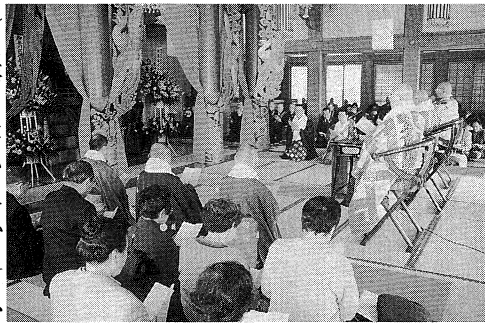
さて、当日は雪まじりの雨の悪天候であったが、昼すぎには薄日も射し、寺院僧侶五〇名ほど、各寺院檀信徒七〇名近く、総勢一三〇名余の人々が参集し、広い本堂も一杯となった。



本堂正面に、本覺寺蔵の大正四年、五鼎作の涅槃圖が掛けられ、総合司会の市仏連専務理事林田眞成師の進行で、式衆・導師が入堂。涅槃會法要が開始された。

法要次第

- 一、開式の言葉（十三時三十分）市仏連副会長 玄野孝善師
- 二、一同三礼（座礼）
- 三、酒水加持 導師
- 四、三帰依文唱和 導師
- 五、啓白文 導師
- 六、誦経（観音経普門品偈、舍利礼文、誦経中焼香）維那
- 七、回向 維那
- 八、一同三礼（座礼）
- 九、式衆・導師一同退堂



導師 市仏連会会長斎藤隆法師
脇導師 神奈川区仏教会
守長尚文師、黒多良弘師
式衆 本間孝康師、樋口芳宏師
大熊光昭師、佐藤賢昌師
菅沼大覚師
西山道彦師（維那）
堂行 菊地茂雄師、守長秀文師
涅槃會法要のあと、式典挨拶を行う。はじめに市仏連会長、続いて釈尊奉讃会事務局長程木徳明師、具仏会長小崎龍雄師、そして、神奈川区仏会長・会処寺院住職守長尚文師と続く。そして、東京寺金森和宏師より講師紹介と、支援品販売についてのあいさつ。

二時四十分、講演。演題「阪神、淡路大震災で学んだこと」。講師はお二人で、はじめは、神戸市兵庫区、浄土宗済麟寺住職・神戸青年仏教徒会長の明石和成師。震災の探検をふまえ、「いつ死んでも、入寂涅槃を迎えても大丈夫かと問われて、覚悟できていると答えら

れる生活をしていきますか？」と、真に迫ったお話であった。つづいての講師福祉専門学校三期生の三上愛さんは、実際にお母さんとお祖母さんを震災で亡くされており、正に死と直面した実体験の話で、細やかな心理変化を具体的に紹介され、わかりやすくお話しいただき、会場の聴衆一同、身を乗り出すように聞き入り、語るも涙、聞かぬも涙のお話だった。しかし、三上さんの、常に明るくユーモアを交え、しっかりとした真摯な口調に、逆に私達が励まされたような気がした。本覺寺の掲示板の「かなしみのきわみに光が射し、かな

「三上愛さん」のふしぎ

「早いものであの地震から三年が経ちました。傷が癒えるように、地震のことを思い出さないうで過ごす時間も多くなりましたが、それが良いことなのか悪いことなのか今の私にはわかりません。」
「最近、生きるってどういうことなんだろう、愛する人と別れなければならないというのではどういふことなんだろうと、地震の時に上を考えています。」
「私は震災前は家族四人と犬一匹とで暮らしていました。一月十七日の早期、助け出されてはじめて見た何とも言えない色、異様な雰囲気は、暗くて恐ろしくて、思いつつ今でも心が寒くなるような空だったことを覚えています。」
「遺体を出すまでに一日かかり、その晩は弟と傍らで夜を明かそうと思いましたが、あちこちで火の手が上が、ここで火にまかれて

の仲間、神奈川県仏青各師を囲んで四〇名程の参席者があつた。幹事は神奈川区仏会計・善龍寺齋藤幸紹師。写真記録係・聖徳寺齋藤正見師。斎藤隆法会長が御礼を述べ、特に具仏青の出席、販売支援に感謝の意を申された。具仏青会長も挨拶され、支援品の完売を報告し、閉会となった。
この度の法会に参加ご協力いただきました皆様、神奈川区仏の各師、本覺寺一同様に心より御礼申し上げます。なお、来年は緑・青葉区となります。よろしくお願ひ申します。

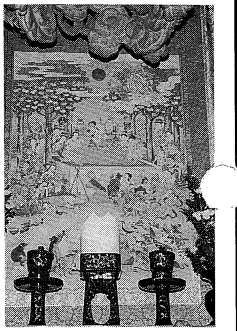
私達が死んだら生き残った甲斐がないと思ひ避難所へ行きました。」
「（遺体運び出すことに苦慮していたとき）近所のオバちゃんから『あんたとも大変やな、私が手配してあげるからー』。そやけど私んこが先だよ！』と言われたんです。その時の言葉はすごいショックでした。今までの守られてきて、私がおんつらい目に遭つてゐるのに何で『私が先やでエ』と言われなアカン、とその時に思つたんですよ。はじめて人を怨む感情を抱きました。今にして思えば逆恨みで、みんな大変だから仕方がないのだとわかります。しかし、その時はつらくてつらくて、とても悔しかったのを覚えていてます。」
「大変な時だから私が出る。しかし、それと相反して、（避難所では）自分のことをやりながら、ま

体験



「何もかも仮の生活というのは、中腰で永いこといるとしんどいでしょう、それと同じで、どっちつ

わりの人に暖かく接してくれる人達に出会いました。……そういう人に出会えばいい。……ああ楽しいなア、人に出会えるのは何と楽しいんやろと思えはじめました。今、このように明るく生きられるのは多分、あの時の皆さん、ボランティアの方々のお蔭だと思うんです。」



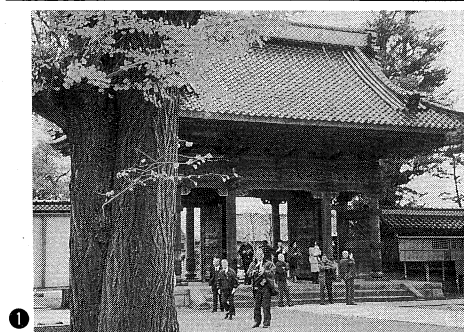
「地震から一週間して、宗教も関係なく十六軒の方と合同葬儀を行いました。このころの私は、負けてはならない、泣いてはならないと言われ続けてきましたので、頑張っていました。そして、友達、私の前で、『三上さんは強いなア』とポロポロ泣いてくれました。私が泣けない分、彼女が代わりに泣いてくれたような気がして、ホッとして救われたような気がしました。」

「先月、震災で共に助かった犬の太郎が亡くなりました。悲しみはほんとうに口では言えません。お母さんや、おばあちゃんが亡くなった時の分まで泣いたとも言えます。震災の時に出来なかつた質問をして周りの人を困らせました。「これから私はどうすればエエん？」と……。今なら言ってもいいんじゃないかと自分の心で許してしまつて……。」

「神戸市は大きな防災都市計画を打ち出しました。それは、住んでいた人、暮らしていた人の気持ちが無視されているように思います。代わりの土地では目茶苦茶しんどいのですが、反対運動はさらしにしているのです。今の私の夢は、地震があつても立ち退かなくていい永遠不滅の住まいを建てることです。そのために立ち退くこともがまんできます。」

「愛するものを失うつらさは、見えない傷口から血がどくどく流れ出て、それでも生き続けなアカンみたいな苦しみがあります。――私はこうして生きながらえています。というよりは、生かされていると思います。遊んでいても、息をして、心臓が動いているんことを考えている。だから、生きるってことはそれだけで壮絶なことなんだなアと思います。」

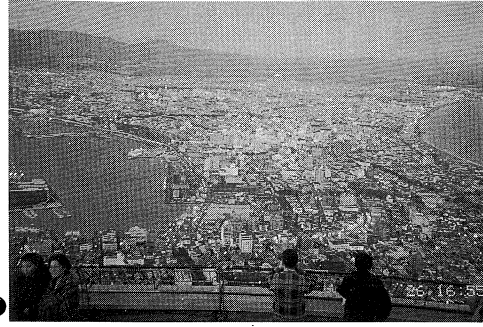
「私の知らない人々もみんな壮絶やつたんやなアと思います。私が今生きているということは、そういう人達とかかわっていくことなや、頑張つて生きて、多くの人と知り合つて一緒に生きていきたいと思ひます。反面、友達が増えれば増えるほど、その人達より先に死にたい、もう他人の死に目に遭いたくない、と弱虫になります。」



「今すべきこと、それは、もつといろいろな体験をして、いろいろなことを感じたり（壮絶な生き方を）しないと壮絶に死なれへんと思う。自分の死を思い描くことは、自分がどう生きるかを考えることと同じなんだなアと思ひました。」

棒を受け、賽の河原の風車に送られるように、恐山をあとにしました。途中、青森にある横浜町を経て、二日目の宿、浅虫観光ホテルに無事到着。

三日目はいよいよ八甲田山雪軍の慰霊です。奉讃会事務局長程木師の熱い想いでこの度の参拝が実現いたしました。青森歩兵第五連隊二〇名中、生存者十一名、死者一九九人の惨事は、現地を訪れ、遭難者の墓、後藤伍長の銅像、資料館などを目の前にしてはじめて、現実味を負ひて、百年の昔ごととは思えぬ痛ましさを感じました。前日に降ったという雪が銅像茶屋の周辺には残り、八甲田の自然の大きさが伝わってきました。墓近くのりんごの里では、「北斗」「レッドゴールド」などの逸品を堪能することもできました。やや紅葉の盛りを過ぎた時期ではありましたが、さすがに風光明媚な奥



入瀬溪谷の散策を楽しみ、十和田湖では遊覧船観光を満喫し、三沢空港から帰途につきました。

今回は、見学地も多く、乗物も多種にわたり、バラエティーに富んだ素晴らしい旅となりました。八十名（うち十名僧侶）の参加者も、いろいろな場で交流を深め、

話題 紹介

中学生の「キレル」「超」
—みんな病んでいる—

中学生の母親が「勉強しなさい」と男の子に言ったら、机の上をゴシゴシとナイフで彫りだしたんです。怖くなっちゃう」と語る。

良い子、悪い子なぜだろうか。私も教職を三十数年。今は住職だからこれに答えなければなりません。人間だから頼りたい、教えてもらいたい、聞いてほしい、と身振り動作で心の中を知らせるのだが、受ける者がそれを見すこしてしまっています。

「キレル」といえば、昔であったら頭が冴え仕事をてきぱきやること、今の中学生は「注意され腹が立って我慢ができないこと、反抗・反発で特に母親への逆らいたい」と語る。「キレル」ということばの対句が「殺す」で、殺人という行動に結びつく意味でなく、ことばのみで簡単に口をついて出す。

戦後の教育は自立性を高め、自分自身で目標を設定して自分で評価することをねらっているが、学ばず者にとっては学ばず、正しく行わ

心に残る慰霊参拝となったことと
思います。参加寺院は次の通りです。

- 福聚院、宝樹院、光傳寺、東照寺、保福寺、宗忠寺、松蔭寺、甚行寺、西有寺、海照寺、西福寺、徳善寺、妙光寺、最勝寺、大聖院、長泉寺、東泉寺、長昌寺

れているか、到達内容がどう評価されているか不安感に戸惑います。

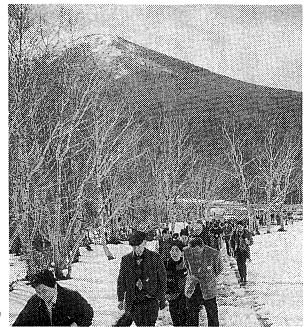
そのついでに自我意識が過剰で、少数の思考と行動だけで、それ以外ムカツク「もつムカツク」「超」という気持ちだけしかありません。

他人が見ている所で叱れば「さらし」になったと思ひ込むから、職員室や廊下で注意を与えてはなりません。心と心のふれ合いが大切になります。ひとり、ひとりに話をすれば分るんです。

家庭では母親は、父親の動く姿を見せないで経済的な変化だけにまどわされて、子どもに愚痴のたりにまどわされません。特にあの学校は、あの学習指導はと、経済や教育の偽の評論家気取りでなく、躰を通して社会性、人間性を育成することと考えます。一つづつ積みあげることゆです。一人一人の個人の尊さを知るべきでありましょう。

その他、非行については、学校以外の場所、盛り場に他の学校の学生までも集まって群（ダン）で五、六名で遊んでいます。金が無ければ主婦などを狙います

写真説明
①函館高龍寺 ②函館の夜景
③八甲田山 ④奥入瀬 ⑤恐山



が、特定の少数で、非行あれば警察の補導しかありません。

ナイフを持つ心理は、護身用、カツコイイ、自分の「力」の誇示だといいますが、私も中学校の頃、剣道、柔道、軍隊では銃剣術など武術を習いましたが、やればやるほど自然に逆らわず、精神の練磨であつて、ナイフは質的に異なっております。

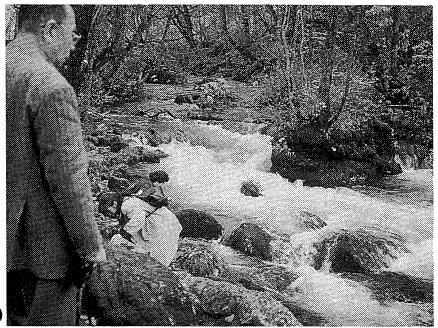
中学生の頃、教師に心配をかけ、母親を泣かしたという方々の言葉でまとめてみましょう。

担任の先生が、私の主張を聞いて理解を示してくれ嬉しかった。母親が「お前が正直に話してくれたのでお詫びが出来た」と涙の顔は忘れられない。

勤めに入った時、親方が信頼してくれて仲間が仕事のやり方を教えてくれた。有り難かった。

私達、仏教を信仰する者はより良い社会をつくる為に反省と努力を、自分の行動を通じて教え諭すしかないと思っております。

(戸塚区仏会会長 吉水法雄)



第十五回春の団参案内

さくらんぼ祭り
期日・平成十年六月十六日(火)
日帰り/雨天決行
旅費・一万円也

毎回、各寺院のご協力を得て好評です。宜しくお願い致します。

祈 慈 愛

横滨市仏教連合会会長
高野山真言宗福聚院住職
齋 藤 隆 法
〒224-053 都筑区池辺町二二九六
電話 九四一八七七五

横滨市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職
橋 下 賢 明
〒234-0056 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八

横滨市仏教連合会顧問
高野山真言宗海照寺住職
滝 川 覚 道
〒235-0003 磯子区坂下町四一九
電話 七五一七〇四

横滨市仏教連合会常務理事
戸塚区仏教会長
浄土宗西蓮寺住職
吉 水 法 雄
〒245-0051 戸塚区名瀬町二四七八
電話 八二一〇四六八

横滨市仏教連合会常務理事
西区仏教会長
浄土真宗大谷派順忍寺住職
織 田 正 尊
〒220-0072 西区浅間町五三八六一九
電話 三二一五二〇七

横滨市釈尊奉讃会担当
港北区仏教会長
曹洞宗東照寺住職
程 木 徳 明
〒223-0053 港北区綱島西一十三一十五
電話 五三一七七八三

横滨市仏教連合会常務理事
金沢区仏教会長
真言宗御室派龍華寺住職
和 田 大 雅
〒236-0028 金沢区洲崎町九一三三
電話 七〇一六七〇五

横滨市仏教連合会監事
緑・青葉区仏教会長
曹洞宗弘聖寺住職
内 野 公 雄
〒226-0014 緑区台村町五四九
電話 九三三一五三二

横滨市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禅寺住職
市 川 智 彬
〒232-0007 南区清水ヶ丘二二二五
電話 一三三二七五九〇

横滨市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職
鷺 雄 興 勝
〒235-0005 磯子区東町六一二〇
電話 七五一〇六七二

<p>横浜市仏教連合会常務理事 都筑区仏教会長 浄土宗宗忠寺住職</p> <p>夏 見 邦 夫</p> <p>〒224-0053 都筑区池辺町二七〇四 電話 九四一—四二七六</p>	<p>横浜市仏教連合会常務理事 神奈川区仏教会長 曹洞宗本覚寺住職</p> <p>守 長 尚 文</p> <p>〒221-0057 神奈川区高島台一—二 電話 三三二—〇一九一</p>	<p>横浜市仏教連合会時局対策委員長 日蓮宗大圓寺住職</p> <p>佐 藤 功 岳</p> <p>〒231-0859 中区大平町九四 電話 六四一—四九三三</p>	<p>横浜市仏教連合会顧問 曹洞宗西有寺住職</p> <p>横 山 敏 明</p> <p>〒231-0859 中区大平町九六 電話 六六一—〇一六六</p>
<p>横浜市仏教連合会顧問弁護士</p> <p>遠 藤 隆 也</p> <p>〒221-0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八三 〒110-0015 (事務所) 台東区東上野二—一八—七 電話 〇三—八三二—二八一九</p>	<p>横浜市仏教連合会御用達 東海ビーエス観光株式会社社長</p> <p>真 川 明</p> <p>〒240-0022 保土ヶ谷区西久保町一—四 公園ハイツ二—一—八 電話 三三四—三四〇〇</p>	<p>横浜市仏教連合会副会長 保土ヶ谷旭区仏教会長 曹洞宗長昌寺住職</p> <p>玄 野 孝 善</p> <p>〒241-0822 旭区さちが丘五九 電話 三九一—二三七九</p>	<p>横浜市仏教連合会副会長 臨濟宗建長寺派松蔭寺住職</p> <p>川 上 敬 吾</p> <p>〒230-0077 鶴見区東寺尾一—一八—一 電話 五七一—一七〇一</p>
<p>横浜市仏教連合会常務理事 瀬谷区仏教会長 浄土真宗大谷派最勝寺住職</p> <p>柳 沢 柳 丸</p> <p>〒246-0021 瀬谷区二ツ橋町三三七—一 電話 三六二—六〇七二</p>	<p>横浜市仏教連合会会報担当 曹洞宗東泉寺副住職</p> <p>関 水 俊 道</p> <p>〒245-0017 泉区下飯田町七四三 電話 八〇二—八〇九七</p>	<p>横浜市仏教連合会会報担当 真言宗豊山派西福寺住職</p> <p>備 前 恭 忍</p> <p>〒246-0037 瀬谷区橋戸三—二—二 電話 三〇一—六一三四</p>	<p>横浜市仏教連合会専務理事 浄土宗見光寺住職</p> <p>林 田 眞 成</p> <p>〒240-0004 保土ヶ谷区岩間町二—一四〇 電話 三三—〇六〇七</p>

支部だより

瀬谷区

平成九年九月二十五日、定期総会、於善昌寺。十一月九日、総会、於徳善寺。

総会の会処では食事等の用意はしないことを申し合わせ。忘年会、新年会は例年の通り。

平成十年一月十日、涅槃会参加、於本覚寺。本年正月も瀬谷八福神は多くの善男善女の参拝者で賑わいました。前回に引き続き瀬谷八福神二回目大黒天の妙光寺さんをご紹介させていただきます。

妙光寺さんは瀬谷区のほぼ中央を南北につらぬいている瀬谷柏尾道路最北端の沿道に位置し、相鉄線の瀬谷駅からは北方に二キロメートル余り、バス停・竹村町下車。大変由緒沿革のある古寺で、寺伝によれば白雉三年（六五二）明光比丘尼が開創、後大同年間（八〇六―八一〇）に天台宗福昌山明光寺と称し、その後弘安五年（一一八二）九月十七日、日蓮聖人が御一泊され、時の住職が教化を受けて日蓮宗に改宗、寺名も蓮昌山妙光寺と改め今日に至る。

日蓮聖人一宿の霊場として有名である。山門から境内にはいると正面に本堂、山門左側に鐘楼堂と大黒天の祀られている立派な祠堂がある。梵鐘は神奈川県的重要文化財に指定されている。

大黒天は元来インドの神で、我國の大国主神と合致して崇められるようになり、頭には頭巾、手には小槌を持ち米俵の上に座した像に

つくりあげることが多い。商売繁盛、あるいは一切の希望が満足させられるもの等々、福徳の来訪をあらわすめでたい神の代表として、また仏法守護の神として、今尚、盛んに信仰の対象として民衆に尊崇されている。

今回は、恵比寿神の善昌寺さんを紹介させていただきます。

緑・青葉区

来る四月十日より五月十日迄の三十一日間、武相寅歳薬師如来霊場の御開扉がおこなわれます。十二年ごとの寅歳に御開扉が行われ、旧緑区、東京町田市を中心にして現在に二十七霊場があり、緑・青葉区仏教会所属の霊場は、十五霊場あります。

各霊場とも、御開帳の準備に追われている毎日です。

期間中の参拝者は、おおよそ五千を見込んでおり、各霊場にて、団体や各種行事を計画しています。

武相寅歳薬師如来霊場会一覽表

- 第一番 旧城寺
 - 第二番 弘聖寺
 - 第三番 観護寺
 - 第四番 青砥薬師堂
 - 第五番 大蔵寺
 - 第六番 宝塔院
 - 第七番 林光寺
 - 第八番 川瀬寺
 - 第九番 東和薬師堂
 - 第十番 瑞雲寺
 - 第十一番 宗泉寺
 - 第十二番 朝光寺
 - 第十三番 満福寺
 - 第十四番 福昌寺
 - 第十五番 恩田薬師堂
 - 第十六番 東光寺
 - 第十七番 安全寺
 - 第十八番 野田薬師堂
 - 第十九番 祥雲寺
 - 第二十番 常楽寺
 - 第二十一番 観音寺
 - 第二十二番 福寿院
 - 第二十三番 川井寺
 - 第二十四番 川井薬師堂
 - 第二十五番 寶徳寺
 - 第二十六番 萬蔵寺
 - 第二十七番 東観寺
- 開扉期間 四月十日～五月

都筑区

新興の都筑区中心地は勿論ながら、周辺地域も又高層建物が増加して来たと共に周辺の寺院迎藍も又、一新して近代化してきた。

今回紹介する真言宗無量寺さんも当地の名刹であるが、昨秋完成した客殿庫裡は、三階建鉄筋コンクリート造である。

平成七年の阪神大震災の惨状を見聞された御住職が、檀信徒の貴重な浄財により地震にも耐えられるようにと当初木造建築の予定を、急遽鉄筋コンクリート造りに変更され、又多くの檀信徒に利用され

また、霊場によつては、中回向を盛大に行うところもあります。

無事無難成満を願ひ、三月十一日には、御待ち受け法要が、青葉区徳恩寺（鹿野融照住職）にて、霊場会会長、緑区十日市場寶徳寺住職安田一雄老師御導師のもと執行されます。



やすいよう、大小の部屋数もさる事ながら、高齢者、弱者を鑑み段差の少ない設計と共にエレベーターを設置し、車イスでも利用出来るようにされ、檀信徒の評判は上々との事である。

さて、当無量寺の歴史だが、幾多の火災により、寺宝等焼失し、開基等不明であるが、金沢文庫所蔵の古文書に鎌倉中期には無量寿福寺と称していた。

この古文書を観るに、金沢区の称名寺との交流深く、その時の住職大阿闍梨善海和尚が当寺に赴き、性観尼に密教の法を伝授した事が記され、脇受者として数名の比丘尼の名が連なっているのを見ると、尼僧律院であったと推測される。

性観尼とは、北条政村の子時広の妻の出家名であり、北条の庇護篤く、七堂伽藍が備わっていたとされる無量寿福寺に住持していた。しかし北条家が執権を失い、庇護篤き無量寿福寺も兵火によって焼失す。

文明三年（室町中期）泉州七宝瀧寺印慶法師東国巡教の折、この地に留まり草案を創造し阿弥陀仏を奉安す、とある。

この頃から寺号を無量寺と称し、鳥山三會寺の末寺となる。

江戸期には、家綱公より御朱印六石を賜り、明治二年三月寺社奉行に提出した書き付けによると、「寺境内坪数二千二百三十八坪」と有る。

宝暦十一年八月火災により寺宝等悉く灰じんとなり、と有る。

本堂の棟札に、廣算法印が發願し、常然法印氏によつて享和元年落慶する。大火より三十六年後、本堂四十三坪と、庫裡三十坪を建築完成をみる。

栄区

『拝呈、師走の候、各位には御健勝のことお慶び申し上げます。』

さて、来年一月十七日は阪神・淡路大震災より、九三年が経ちます。現在、金融破綻等厳しい社会情勢の中、人々の関心が殆ど無くなりつつあります。しかし、まだ仮設住宅等で不自由な暮らしを強いられているかたもたくさんおられます。また、あの大地震を忘れなために、第19回目の駅前募金を致したいと存じます。

つきましては、寒いおりですがお差し繰りの上、一月十七日（土）午後三時より五時までご参加ご協力いただきたく、御願ひ申し上げます。尚、雨天時の勸募の有無に

ついでには、事務局へお問い合わせ下さい。
 下の「はがき」が庶務理事から配送され、十四会員中八ヶ寺がJR本郷台駅前に立ちました。
 一円玉から老万円札まで合計金拾壹万六千四百拾五円也が応募され、神奈川新聞厚生文化事業団へ、阪神大震災被災者救済金として届けてました。



そしてこのことが、同新聞二月三日(火)二十一ページの寄託欄に掲載されました。
 募金箱に立ち寄って下さった方々には、左のようにお礼の言葉を書いた散華をお渡ししております。

市仏連合会会員各位には春を迎えて益々法務にご精進のことと思っております。
 私共、西区仏教会におきましても会員各位が、それぞれの自坊におかれまして各宗々門の行事や教法宣布にご活躍をいただいております。感謝の念で一杯でございます。

毎年の行事が背を追うように迫ってまいります。春の降誕会に向けて、本年は赤門、東福寺様を会場にしての花まつり、そのための準備会が持たれて検討がくり返される運びです。会員各位が熱心にご参加下さり、厳修される運びであります。

人類に向けられた釈尊のメッセーにに連ねていただくことの中に尊いことか、私達が毎日の生活の中で特に人間中心主義の傲慢さによる罪深きことを自覚し、人間としての深く懺悔することのいかに大切なことかを、学ばせていただく縁として修せられることでもあります。

ひとつつとつの行事に深い願いと、祈りが込められていることを大切にしたいと思っております。

金 沢 区

平成十年は新春早々、一月五日に県の戦没者慰霊堂の法要の当番に当り、会長以下四名が法要を厳修した。一月十六日には大岡の「花里」において、恒例の新年総会と新年会が二十名以上の参加を得て開催された。その直後、十九日から二十日にかけて、一泊二日の奉讃会新春名利参拝旅行が行われた。七十三名の参加者は永江院、方広寺への参拝の他、ヤマハの工場見学、自衛隊の基地見学等を含めて、楽しい有意義な旅行をすることができた。

二月に入り九日に、金沢区釈尊奉讃会名誉会長であった宇野忠夫先生が逝去なされ、十二日には菩提寺である長生寺の住職・六浦文英上人の導師のもと、約六百人の方々が別れを惜しんだ。なお宇野忠夫先生は昭和二十七年より三十有余年の永きにわたり、金沢区釈尊奉讃会の会長を勤められ、仏教会の発展に尽くされた功績は大なるものがある。十五日には第三十八回涅槃会が正法院で約七十名の参加を得て勤修された。

来る四月五日(日)には、第五十二回花まつり釜利谷大会が、自性院を会場に開催される予定である。(和田大雅 記)

保 土 ヶ 谷 ・ 旭 区

十二月五日、成道会法要と記念講演の開催。十二月ともなると大変寒い日が続きますが、今日はとても温かで、参詣人も二百余名と大変盛大に行なわれた。会所の眞福寺様は境内地、本堂、客殿と清掃がゆきとどいてすがすがしい感じ、午前十時半、釈尊の成道を祝し法要が営まれ、続いて「酒の友編集長佐々木久子先生」の約一時間間に渡る記念講演、題して「一寸先は光」と言うお話をいただきました。

私たちは日常口ぐせのように一寸先は闇だといいますが、特に年配のかたは、若い者に遠慮をしていられる方が多く見られますが、そんな事ではこれからの日本は沈没してしまいます。今までの経験を生かし、若い者を指導していかなければなりません。それには希望を持ち心豊かになる事が大切です。一寸先は光だと心に命じどんな御活躍いただくことをお願いいたします。と講演をいただきました。

十二月十九日 寒い日ですが午後から相鉄線二俣川駅、天王町駅、JRの保土ヶ谷駅で恒例の年末助け合い托鉢を行いました。仏教会

事 務 日 誌

10・2・16 会長・専務理事申問 各区仏会長へ奉讃会 だより発送
 10・3・6 会報46号第一回編集 会議 於 東京寺
 10・3・25 会報46号第二回編集 会議 於長昌寺

9・10・25 港北区東林寺へ祝電 打電
 9・10・27 秋の仏跡参拝旅行 八甲田山と恐山 への旅
 9・11・1 市仏連役員名簿発送
 9・11・12 自局対策委員会・大 圓寺
 9・11・27 第一回涅槃会打合わせ 於「福久」
 9・12・2 市仏連役員忘年会 於「橘屋」
 9・12・15 保土ヶ谷区天徳院へ 弔電打電
 10・2・4 第二回涅槃会打合わせ 於本覚寺、神奈 川区仏12名、市仏6 名出席
 10・2・4 会報46号原稿依頼、 各区会長へ発送
 10・2・10 第23回涅槃会・本覚 寺
 10・2・10 釈尊奉讃会前会長故 宇野忠夫氏・宇野晴 子様弔電打電
 10・2・2 宇野忠夫氏葬儀に副

編 集 後 記

三上愛さんの講演は真に迫るものであった。(前文を記載したかったが紙面の都合で印象に残った箇所をなるべく会話文として収録した。少しでも講演の様子を察知いただければ幸甚である。

戸塚区の吉水師より玉稿をいただいた。冒頭の会長挨拶でも教育問題に触れられていた。際立ったテーマ、その他の内容について、会員諸師のご寄稿を会報担当までお寄せいただきたい。

各師ご多忙のところであるが、横浜市は来年度から市内三ヶ所の市営斎場で、輪番制で友引日も営業することとなった。また、緑区长津田に、二〇〇一年完成予定の「北部方面斎場」ができる。先友の会合も難しい時代となるのか。
 ▼宗教法人法の改正により、三月決算の寺院の場合、七月末までに提出する書類を付記する。(1)役員名簿 (2)財産目録 (3)収支計算書(公益事業八千万円未満免除、収益事業を営む法人は全て提出)

